

## セットアップモデルが導く 包括治療のゴール



津田 祐 青木 健治

---

長期的に予知性の高い歯科治療を行う上で、歯牙の位置が重要であり、それを改善するために矯正歯科治療がひとつの選択肢であると考えます。その中でも多数の補綴予定歯や欠損が存在するケースにおいては、矯正歯科治療を含む包括治療の対象となります。その中で、治療ゴールのイメージを歯科医師と歯科技工士が共に構築し治療を進めていくことができれば、適正な治療咬合の達成に繋がると考えます。しかし、治療のゴールが明確でない場合は、歯科医師と歯科技工士のコミュニケーションツールである診断用セットアップモデルを製作し活用することで、適正な治療咬合が達成するのかを判断することが可能である。

今回は診断に効果的であるセットアップモデル製作時に必要な基礎知識と、さらには歯科医師とコミュニケーションを取るべき項目について、症例を通して説明したい。

---

### ○津田 祐

#### 【略歴】

2008年 徳島大学歯学部卒業

2015年 大阪市開業

#### 【所属・役職】

日本臨床歯科学会大阪支部理事

咬合・補綴治療計画セミナー インストラクター

GPO インストラクター

ITISC 阪神 Codirector

### ○青木 健治

#### 【略歴】

1998年 大阪歯科学院専門学校 卒業

1999年 デンタルコーディネイトセンター 勤務

2008年 本多歯科医院 勤務

2019年 LORE dental laboratory 開設

#### 【所属・役職】

大阪 S.J.C.D 臨床テクニシャンコース インストラクター

新大阪歯科技工士専門学校 専攻科非常勤講師

日本臨床歯科学会 大阪支部 会員

大阪セラミックトレーニングセンター 週末コースインストラクター